

## ○ 協働事業の概要

記入年月日 平成29年3月31日

事業名	地域・家族の育児参加推進&子育てしやすい街づくり事業
団体名	小平はぐくみプロジェクト
担当課名	子育て支援課
事業期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

①地域の課題が解決されましたか。(計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。)

**【講座事業】**

「産前産後ご夫婦向け講座」と、「孫育て講座」では、産前産後の女性の心と体の変化や、今時の子育て事情、産後の女性がどんなサポートを必要としているかを学ぶことで、夫婦間や世代間のギャップに気づき、思いやりをもって育児参加するきっかけを作ることができた。開催後に、「夫婦で話し合いをもつ機会がもてた。」「夫が家事を手伝ってくれるようになった。」「夫との会話を工夫するようになったら、夫婦の関係が良くなった。」などの感想も寄せられ、満足度が高かった。

「母親学級」では、参加した母親自身が産前産後の心と体の変化を知り、産後の過ごし方や授乳のアドバイスなどを学ぶことで、不安を解消することができ、子育てへの意欲が向上した。周りのサポートを受けることの大切さが伝わり、頑張りすぎや孤立を防ぐことに繋がったと思われる。

**【子育て応援カード事業】**

地域コミュニティと関わる機会が少なく、孤立しがちな子育て世帯や、転入して間もない子育て世帯が、地域の温かいコミュニティの輪に繋がるきっかけとなった。また、地域の団体や商店の方々も巻き込んで「地域全体で子育て」をする雰囲気ができ、子育てしやすい街づくりに繋がっていると実感できた。

カードの利用が進むことで地域経済が活性化する、ということまではいたらなかったが、大型店舗では味わえない人と人との温かな繋がりが広がった。

②団体の長所を、発揮させることが出来ましたか。(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開ができましたか。)

**【講座事業】**

子育て世代向けの講座(「産前産後ご夫婦向け講座」、「母親学級」)は、当会が積み重ねてきたネットワークを活かしての呼びかけや、ブログやSNSを利用した周知により、参加者を募ることができた。

祖父母世代向けの講座(「孫育て講座」)の周知が難しく、様々な団体に協力をお願いしたが、ほとんどの参加者が、市報をみて申し込まれた方だったので、市報に掲載していただくことの影響力の強さをあらためて感じた。

「産前産後ご夫婦向け講座」の講師は、全国で子育て支援活動をされている30代の男性講師に依頼をしたことで、同世代の男性の参加者に共感を得ることができた。産後の女性が、自分自身の心と体の変化を夫に上手く説明できずに関係が悪化し孤立してしまうケースが多い中、それを男性目線で代弁していただいたことで、女性からも共感を得ることができた。

### 【子育て応援カード事業】

市と協働することで、子育て応援カードを対象者に数多く配布することができたこと、事業の信頼度が増し、協力団体・店舗の事業者数が拡大したことは、大きな成果だった。

子育て応援カードの協力店が新たに74軒も加わった。推進サポーターとしてお手伝いいただいた4名の方が、日ごろから買い物している店舗や、ご自身の人脈を活かして推進を進めてくださったことが成果につながった。

③協働の姿勢が図られましたか。(互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。)

担当課には、会場申請や備品の確保の他、広報物の作成や配布先についてのアドバイスをいただき、効率的に実施することができた。

保育課には、保育園・幼稚園の園長会の席で、子育て応援カード事業の説明と、配布の協力依頼をする機会をいただき、効率よく配布することができた。

産業振興課には、子育て応援カード事業において、商工会への協力依頼や、「協力団体・店舗募集ちらし」の配布の推進にお力添えをいただいた。

健康推進課には、子育て応援カードと利用説明書を一枚ずつテープでセットをして、乳幼児健診時や、母子手帳配布時に配布いただき、丁寧に説明もしていただいたようで、多大なご協力をいただいた。

④改善提案がありますか。

事業の企画や、運営にも携わっていただけると、行政と市民団体の持ち味を発揮できたのではないかと思います。

自由記載欄